

岡崎市議会議長 様

支出番号	
------	--

会派名 民政クラブ

代表者名 加藤嘉哉

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和 7 年 8 月 19 日提出

活動年月日	令和 7年 7月 14日（月）～ 7月 16日（水）		
氏名	佐藤哲郎・瀬戸清太郎		
用務先 及び 内 容	1 7月 14日	用務先	北海道網走市
		内 容	再エネ地産地消モデル(あばしり電力NAS電池)について
	2 7月 15日	用務先	北海道北見市
		内 容	スポーツ(カーリング)によるまちの活性化について
	3 7月 16日	用務先	北海道旭川市
		内 容	ICTパークの取組について
	4 月 日	用務先	
		内 容	
備 考			

視 察 者	佐藤哲朗、瀬戸清太郎
視 察 日 時	令和7年7月14日(月) 10時00分～11時30分
視 察 先 ・ 概 要	北海道網走市【人口】31,732人【面積】470.84㎡【世帯数】17,841世帯 ・オホーツク北網地方拠点都市地域。主要産業は、畑作と酪農等の農業と漁業、農水産加工業と流水観光等の観光業。近年はマラソン合宿で道外から多数の学生が訪れる。
視 察 内 容	再エネ地産地消モデル（あばしり電力N A S電池）について
選定理由(目的)	国が掲げる『2050年カーボンニュートラル』の実現や道内の大規模停電の経験で地域独立系統（MG:マイクログリッド）の構築は、地球温暖化対策の一環であり、地域内の電気や熱の地産地消を促進し、地域の効率的なエネルギー利用を可能とするとともに、レジリエンス強化や脱炭素社会を軸とした地域活性化にも貢献しているため選定した。
岡崎市の現状と課題	本市も、ごみ処理施設「中央クリーンセンター」「八帖クリーンセンター」のバイオマス発電設備でつくられた電気を公共施設などに供給している。また、事業利益を活用し、再生可能エネルギーの普及拡大に努め、市が目指す持続可能な社会の構築に貢献しているが、非常災害時の電源確保に発電し蓄電した電力を活用するマイクログリッドを活用した自営線での公共施設への電源供給は導入しておらず、特に中山間地域でのレジリエンス強化のための電源確保は課題感がある。
視 察 概 要	1、あばしり電力の所在地 ・北海道網走市潮見4丁目（塩見発電所） ・北海道網走市字呼人534番地の2 NGKオホーツク内（あばしり電力所在地） 2、あばしり電力の事業概要 事業内容：再エネの発電および電力の取次事業。網走市の施設および遊休地に設置する大容量蓄電池・太陽光発電設備による発電、北海道電力取次業務等 資本金：7,000万円（NGK6,000万(86%)、網走市1,000万(14%)） 役員：取締役3名（NGK2名、網走市1名）監査役1名 ※全て非常駐 事業期間：23年間。期間終了後の事業継承は株主間で協議 3、視察結果 (1) 主な発電設備について ① 潮見発電所  ○概要 - 敷地面積 約4,500㎡ - 竣工 2023年3月 ○太陽光発電設備 - パネル 1,070枚 - 定格出力 401.25kW - 発電量 約49万kWh/年 ○大容量蓄電池設備 - 電池容量 1,200kWh（出力200kW） - 数量 1台（20ftコンテナ1台） ○自営線 - 亘長 約350m - 供給先 潮見小学校、コミュニティセンター ☆災害時にも自営線にて主要な防災拠点となる避難所2箇所への電源供給を継続。 ☆発電電力は取次契約で北海道電力を介し再エネ価値付きで公共施設へ供給。 ■建設支援（事業費に対する補助） 北海道の「ゼロカーボンビレッジ構築支援事業」にて、太陽光発電所および蓄電システム設置工事事業費21千万円に対し、7.5千万円は北海道より補助金が交付された。

①視察開始



(議長挨拶)

①潮見発電所現地
視察状況



②蓄電池銘板



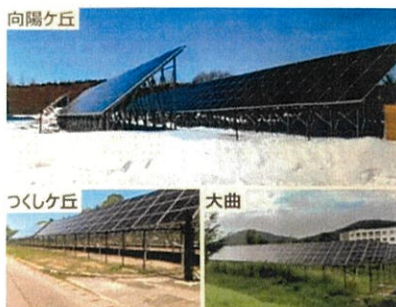
■ N A S 電池外観



■ N A S 電池の特徴

- エネルギー密度が高く充放電のレスポンス性能が高い。
- コンテナ 1 個分のため設置が容易。
- 気象による発電量のばらつきの安定化。
- 昼間の太陽光発電の余剰分を充電し、夜間に放電するエネルギーシフトが可能。
- 品質が保たれる期間が 15 年と長い。

②他の再エネ発電所（電力会社配電線へ連携し各所へ供給）



■設備概要

- 向陽ヶ丘発電所 550kW
- つくしヶ丘発電所 300kW
- 大曲発電所 250kW

※上記 3 箇所は令和 6 年度より合計 1.1MW の太陽光発電所を稼働

○新設太陽光発電所

- NGK ホーク敷地内に合計 1.0MW の太陽光発電設備を建設中。(令和 7 年度運転開始予定)

■建設支援（事業費に対する補助）

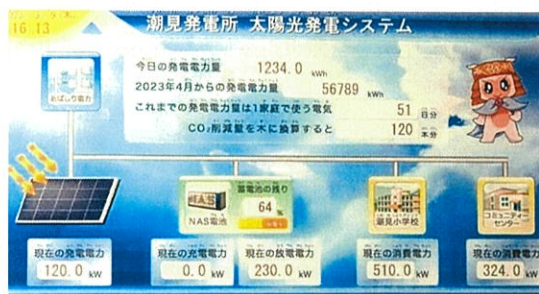
北海道の「新エネルギー設備導入支援事業」にて、太陽光発電所設置工事業費 30 千万円に対し、5 千万円は北海道より補助金が交付された。

(2) 事業や取組みへの表彰

- ①潮見地区におけるマイクログリッド構築による再生可能エネルギーの効率的利用は太陽光発電設備と大容量の大容量蓄電池を組合わせて、地域マイクログリッドを構築することにより、エネルギーの地産地消とレジリエンスの向上を実現した先進モデルとして評価され、北海道「省エネルギー・新エネルギー促進対象」「新エネルギー部門で大賞」を受賞した。
- ②地球温暖化の原因である温室効果ガスの削減、近年頻発・激甚化する災害による大規模停電への備え等を含めた地域課題への対応で「あばしり電力」の設立をしたことや、ア、電力系統が脆弱な他の地域への導入モデルケースであり、他の自治体の再エネ導入や蓄電池によるマイクログリッドの構築・展開が期待されること。イ、太陽光発電設備と大容量蓄電池の組合せで災害時の対応力を強化。ウ、今後新たに網走市内 3 地区に太陽光発電設備等を設置予定。が評価され、経済産業省北海道経済産業局「北国の省エネ・新エネ大賞 優秀賞」受賞。

(3) 環境学習への取組み

潮見小学校に隣接した場所へ太陽光発電所と大容量蓄電池を設置し、発電システム見える化モニタを学校内へ設置したことで、小学生が環境問題を身近に感じられることや、天候や季節による発電量の違いを体験できる機会を提供している。また、学校通信でも発電蓄電システムを取上げ、環境問題と発電蓄電システムの関連性の教育に取り組んでいる。



4. 主な質疑応答

- Q. マイクログリッドを導入した経緯の中に市民からの要望も考慮されたのか。
- A. 脱炭素社会の実現はもとより、2018年11月の胆振東部地震によるブラックアウトの復旧情報等は電源喪失状態では市からの防災無線や広報設備が機能せず、NGKからの提案やレジリエンス強化策の一環で設置に踏み切った。なお、市民からの要望は特にない。
- Q. 電力会社の停電時に電力会社の系統から切り離し、大容量蓄電池から供給することはあったか。

	A. 実践運転の実績はまだない。 Q. マイクログリッド導入後の今後の課題は。 A. 潮見発電所は市営住宅跡地を活用した。さらなる発電所拡大を視野に発電所の建設候補地の選定などの課題はあるが、カーボンニュートラルに向けた取組みを引き続き進めていく。 Q. マイクログリッドを導入した前後でレジリエンスの意識等の変化はあったか。 A. 潮見小学校に太陽光発電量やCO2換算削減量を示す発電モニタを設置し、環境学習に役立てる取組を行っており、低学年から環境への意識が高まった。 Q. マイクログリッドを導入したことを市からプロモーションした実績はあるか。 A. 市の面積に対し微小な供給区域のため特に行ってない。しかし、地域柄災害を受ける可能性が低く、また広大な自然がある街であると市内の東京農大の先生は絶賛している。 Q. 大容量蓄電池による単独供給は、電池充電量がほぼ満タンとすると何日間供給できるか。 A. 天候や供給先の電力使用量によるが、概ね10日間以上は供給可能と見込んでいる。なお、大容量蓄電池の寿命はNGKから15年と聞いている。 Q. 大容量蓄電池の電力供給100%の単独運転や並列運転の切替操作はどのように行っているか。 A. 電力会社が停電した場合は自動的に単独運転に切替わる。再び並列運転とする場合はNGKのある名古屋からコントロールしている。 Q. 電力会社送電設備とマイクログリッド送電網は混在するか。 A. 大容量蓄電池から供給する電力は自営線で行っており、マイクログリッドを形成するエリア内で電力会社の系統とは未接続。 Q. あばしり電力の供給力としては市内の電気使用量の何%程度を占めるか。また学校への太陽光パネルの設置は行っているのか。 A. 4箇所の発電所で網走市の公共施設の年間電気使用量の1割に満たない供給力である。市の予算の都合もあり、市内15校ある小中学校の内、太陽光パネル設置校は3校程度である。
本市への反映 (意見・課題など)	【佐藤哲朗】 2018年の北海道胆振東部地震で発生した大規模停電の際に、市役所・避難所等も電源が供給されなかったことから、市民への情報提供もできず大変苦労された経験を踏まえて、あばしり電力の設立に至ったとのこと。設置の費用は大きかったが、北海道からの補助金に加えNGKの出資もあり、市としての負担を最小限として実現できていることは有効な手法と感じた。また、太陽光で発電した電力をNAS電池に蓄えており、停電時には避難所へ電源を供給できること、その給電は自営線を使用していることは大いに意義がある。加えて日常は市内の公共施設48か所とNGKオホーツクに電力を供給することで、エネルギーの地産地消、脱炭素にも繋げていることは大いに参考になった。 脱炭素の取組はコストの負担が大きいと感じているが、その負担を軽減する手法と電源の多様化、発災時のレジリエンスの強化など、参考にすべきことがあると感じた。 【瀬戸清太郎】 本市は2050年に市域の温室効果ガス排出量ゼロの達成を目指したゼロカーボンシティーを表明し、エネルギーの地産地消と低炭素化を目指し再生可能エネルギーの活用も進めている。本市の中山間地域で仮に土砂災害等による道路の途絶によって電気の復旧が長時間に及んだ場合、市民生活への影響は限りなく多くなる。しかし、マイクログリッドを構築してあれば地区限定で送電が可能となり、それによって冷暖房等の市民の命を守る電力の供給に繋がる。よって、大容量蓄電池と太陽光等の発電設備を組み合わせ、避難所となる場所や地域の核となる施設への供給にマイクログリッドを構築することは意義あることであり、市民の命を守るレジリエンス強化策の一つとして、本市としても参考にすべき取組みだと感じた。

【視察先の皆さま】



【参考】潮見発電所看板

あばしり電力株式会社 日本力デジ 網走市

地球にやさしく、災害に強く。サステナブルな網走の未来に向けて、地域新電力会社「あばしり電力」の挑戦が始まります。

1 まるる

太陽光発電を用い、再生可能エネルギーを最大限活用してCO2を削減します。また、網走市で生まれた電力を網走市で消費することで、地元の資金を地域内に循環させ、地域経済の活性化を図ります。

2 そなえる

2018年の北海道大規模停電の経験を生かえ、太陽光発電設備や電力貯蔵用NAS電池(防災電源)を自社で保有し、地域の災害対応力の向上を図ります。災害停電時でも指定緊急避難場所である潮見小学校へ電力を供給します。

3 はぐくむ

潮見小学校は、カーボンニュートラル先進モデル校として再生可能エネルギー100%の学校運営を目指します。太陽光パネルと蓄電池を小学校付近に設置することで、児童たちが再生可能エネルギーの仕組みやCO2削減効果を直接体験できる環境学習の場を提供します。

潮見発電所完成イメージ図 (2023年完了予定)

電力を供給 潮見小学校

電力を供給 潮見コミュニティセンター

発電 太陽光発電設備

発電 大容量蓄電システム NAS 電池

視 察 者	瀬戸清太郎、佐藤哲朗(報告者)
視 察 日 時	令和7年7月15日(火) 13時30分～15時45分
視 察 先・概 要	北海道北見市 ・人口:109,032人 ・世帯数:61,371世帯 ・面積:1427.41km ² ・人口密度:76.4人/km ² ・北見市は2006年に旧北見市が端野町、常呂町、留辺蘂町合併し、東西約110kmに広がる北海道内で1番の面積の自治体。玉ねぎの生産量・出荷量、白花豆の生産量が日本一となるなど農業が盛んなことに加え、ホタテ養殖発祥の地(常呂町)でもある。
視 察 内 容	スポーツ(カーリング)によるまちの活性化について
選 定 理 由 (目 的)	常呂町ではスポーツ合宿の誘致に積極的に取り組んでおり、夏はラグビー、陸上競技などを誘致している。また、旧常呂町はカーリングの町として知られカーリング専用施設「アドビックス常呂カーリングホール」があることに加え、北見カーリングホールは国内外トップチームの練習や学校の授業、観光体験など幅広く活用されている。スポーツによるまちの活性化について、地域の資源を有効に活用してまちの活性化に取り組んでいる北見市の考え方を参考として、岡崎市におけるスポーツツーリズムに繋げる一助とするために選定した。
岡崎市の現状と課題	岡崎市における地域資源としては、バレーボール、アーチェリーなどの競技があり、中央総合公園といった運動施設も充実しているが、地域としての選んでいただける特徴に乏しいことや宿泊施設が限定されていることが課題と言える。
視 察 概 要	1. カーリングによるまちの活性化の概要 地域資源であるカーリングと地元チーム、ロコ・ソラーレの知名度を活用しつつ、地元の国立大学法人北見工業大学による世界初の最先端スポーツ科学に基づく高度な競技力向上への支援を提供する通年型カーリングホールを整備し、北見カーリング協会や一般社団法人北見市観光協会等の地域の団体と連携を図りながら、国内外のトップアスリートの長期滞在型の合宿等による交流人口の拡大や北見市の認知度向上を図っている。 また、本施設を地元チームのさらなる飛躍と後進となる人材を地域全体で育成する拠点とし、人材育成を通じて、地域資源であるカーリングの持続的な発展を目指している。本施設の核となる機能は、同大学の研究成果を実用化したものであり、有用性の証明は同大学の価値や魅力の向上にも寄与し、首都圏からの進学インセンティブとなり、ひいては卒業後の北見市内での就職に繋がることを企図している。 2. カーリングによる健康増進の効果 カーリングは、小学生低学年程度から高齢者まで幅広い年代で、年齢や体力、運動技能を問わずプレーできる生涯スポーツ。また、高度な戦略とテクニックが必要なことから「氷上のチェス」と呼ばれるほど頭を駆使する頭脳的なスポーツであり、脳の活性化も期待されている。カーリングも他のスポーツと同様に、自己免疫力の向上、ストレスの解消、体重コントロール、体力の維持・向上、血流の促進や高齢者の筋量・筋力の維持、転倒防止、認知症予防、食欲増進、また子どもの発育期の健全な成長に繋げることを目的としている。 3. 競技力向上支援システムの概要や効果 地元の国立大学法人北見工業大学のカーリング支援研究の成果を応用、実用化したシステムで、赤外線を用いたストーントラッキングシステム、モーションキャプチャシステム、AIシミュレーションシステムなど10種類のシステムを備え、利用者の競技力向上の支援を目的としている。 トップチームやカーリング協会の合宿などで利用されており、システムにより得たデータ等がトレーニングやプレーにフィードバックできたと評価されている。



4. 運営における工夫

後進の人材育成、利用者の裾野拡大を目的に小中学校の体育授業での利用を進めており、利用者は年々増加している。(講師料と移動経費は市で負担)

また、公募によりネーミングライツパートナー契約(年額税込 330 万円)を(株)アルゴグラフィックスと、ホール内壁面広告(年額税込57万 2 千円)を市内広告代理店と契約し、市の一般財源充当の低減を図っている。

2025 年 2 月から公共施設予約サービスを導入し、オンラインでの施設予約により、利用者の利便性の向上を図った。



5. 大学との連携

市と国立大学法人北見工業大学は包括的連携協定を締結しており、その一環としてカーリングにかかる学術研究、振興の推進に関して連携、協力を行うこととしている。

市は大学に対して学術研究等用途の施設利用を無償で認め、大学は施設維持管理経費の一部として年額税込 350 万円を負担している。

大学は、技術力向上支援システムを利用するなどして、戦術やトレーニング法の開発等を支援する研究を行っており、2020 年 10 月のホール開設以降、60 件の国内、国際会議での研究発表等を行っている。

6. 現在の課題と今後の展開

体育授業や初心者体験利用は日中の利用が多いことから、講師のなり手が限られており、その確保が課題となっている。講師の育成には一定程度の期間を要し、地元カーリング協会など関係者の理解と協力が必要。

旅行客が主である初心者カーリング体験やトップチーム等の合宿利用の促進など、交流人口の更なる拡大が課題と言えるが、当ホールで開催するアルゴグラフィックスカップでは 2 年連続で海外チームの出場が決まっており、海外チームを含めた合宿利用の促進に努めている。

【主な質疑応答】

Q: 北見カーリングホールの経済効果について伺います。

A: 令和 6 年度の実績として、SC 軽井沢、韓国のトップチームなど 31 チーム 369 名が参加。ラグビー、サッカーも合わせて 4 億 5 千万円程度と推定している。

Q: 年間の運営経費について伺います。

A: 年間の経費が約 4,100 万円です。収入としては、施設利用料が約 700 万円、ネーミングライツにより 300 万円、ホール内壁面広告で約 57 万円、大学の負担が 350 万円であり、実質的な負担は約 2,700 万円程度となっています。経費で一番大きいものは光熱水費で 1,180 万円/年掛かっています。

Q: 施設の整備による市内でのメリットについて伺います。

A: 市内の小学生は 2 回/年授業で利用している。中学生、高校生も活用しており、年中利用できる施設であり、今後の競技人口の拡大にも繋がるものと考えています。

Q: 更なる普及、拡大に向けた取り組みがあれば伺います。

A: 地域おこし協力隊を活用して、フロアカーリング(ストーンにキャスターが付いており、氷がなくてもプレー可能)を関東で実施したところ、多くの方に楽しんでいただけた。好評を得ており、今年も開催の要望をいただいている。

Q: 合宿で訪れる方々の宿泊施設について伺います。

A: 施設の近隣にできた北見アスリートステイズという宿泊施設が利用されている。予約できない場合には、駅近傍のホテルが利用されている。市として仲介等は実施しておらず、スポーツ合宿実行委員会にホテル旅館組合も加盟しており、大会開催時の振り分けも実施してもらっている。

本市への反映
(意見・課題など)

【瀬戸清太郎】

北見市民にとってカーリングは、無くてはならないスポーツであり、市民の一体感を育む重要なスポーツとなっている。まちづくりにおいては、市民共通の話題や行事の存在が必要であり、カーリングはその役割を果たし、市民を束ねる象徴的存在である。その基幹施設である北見カーリングホールは、競技場としての機能にとどまらず、シート外で繰り広げられる市民の井戸端会議や交流の場としても、地域内外の人々の結びつきを深める役割を担っており、施設整備に要する費用を上回る効果を生み出している。さらに、北見工業大学との連携により研究施設的な機能も有しており、単なる競技施設ではなく、複合的な目的を果たす拠点として整備された点は、本市が今後公共施設の建設・整備を進める上でも大変参考となる考え方である。近年、地域と個人とのつながりが希薄化し、災害時などにおける共助にも不安がある中で、市民共通のレクリエーションやスポーツを発掘し、市民の一体感を醸成する取り組みの重要性を改めて認識する機会となった。

【佐藤哲朗】

前日に訪問した網走市においても多くの若いランナーを目にする機会があり、夏休みの期間中に気候のよい北海道は元々合宿地として人気のある地域だと感じる事ができた。その上で、北見市においては地域資源を有効に活用してスポーツ合宿を受け入れる体制が整っており、人気の地域になっている実態があった。

また、平日の昼間には小中学生が授業で、夕方からは部活動や社会人が利用し、休日には大会が開催されるなど、年間を通じて施設を有効に活用すると共に、カーリングの競技人口の増加に大きく貢献していることを感じる事ができた。施設を整備するにあたっては、しっかりと活用するためと、交流人口の増加も含めての計画していくことは大いに参考になった。



視 察 者	佐藤哲朗、瀬戸清太郎
視 察 日 時	令和7年7月16日(水) 10時00分～11時30分
視 察 先 ・ 概 要	北海道旭川市【人口】313,649人【面積】747.66㎡【世帯数】176,906世帯 ・北北海道の交通・物流の拠点として、卸・小売業、サービス業などが発展。近年は、外国人観光客が増加しており、旭山動物園や雪質が良いスキー場などに、国内外から年間500万人を超える観光客が訪れている。
視 察 内 容	ICTパークの取組について
選定理由(目的)	本市の「おかざき DX ビジョン」の基本方針や岡崎市立地適正化計画の「居住を支える生活機能や広域的な都市機能が集積し、にぎわいと交流あふれる都心ゾーンと公共交通基幹軸を中心に、歩いて暮らしやすい生活圏の形成」といった中心部の街づくりの方向性の合致やICTに関心の高い人材の育成、AIやIOT/ICT等を活用した地域産業の課題解決などは本市としても他市の事例を参考にすべきであり、先進的な取組みのため視察を行った。
岡崎市の現状と課題	本市はQURUWA地区を拠点にした歩行中心の都市再編と、交通・防災・観光・行政にまたがるIOT/ICT活用の実証を推進しつつ各種事業は先進的かつ複合的に展開されている。一方で、市民を対象とした恒常的なIT人材育成施設の整備や育成プログラムの構築、ICT等の先進技術を担い・支え・運用する人材の育成基盤は整備途中といった感が否めず、制度整備・スケール化・住民巻き込み等の持続性の確保が課題である。
視 察 概 要	1, 視察先の事業概要 ・所在地：北海道旭川市3条通8丁目842-2 神田館（元国民劇場） 劇場を含む雑居ビル内の連続しないテナントを旭川市が借り受け整備しており、ビル全体がICTパークではない。 ・運営者：一般社団法人 大雪カムイミントラ DMO（指定管理者） ・従業員：DMO-1名、市職員-1名、アルバイト6名 ・費用：2千万円/年。（2019年の開業当初6千万円/年）※ ※地方創生交付金6割と旭川市が4割を負担していたが、現在は、開業当初のリース品の返却による費用軽減や企業版ふるさと納税の活用、貸スペースの収入を除く実質1,500万/年程度で推移。  2, ICTパークの設備の特徴 ■コクゲキ（eスポーツスタジアム） ・劇場座席を利用し、約189席を備える劇場型ホールで、大型LEDビジョン（約5m×3m）、音響・照明・通信設備を完備。 ・国内初ローカル5Gを導入し、高速・大容量通信による遠隔対戦も実現。イベント用途は多岐にわたり、社内研修や講演会、地域文化・エンタメ利用にも対応可能。 ■トレーニングジム&eコミュニケーションスペース ・eスポーツのトレーニングジムとして、ハイスペックPC10台、高性能チェア/ヘッドセット完備。主に中高生の利用を見込む。 ・フリーWi-Fi完備のフリースペースも有り。遊技場ではなくハード提供施設であり、eスポーツや情報交換の場としても活用可能。 ■スマートイノベーションラボ北海道旭川ルーム ・NTT東日本が設置し旭川市が借り受けている。高性能GPUサーバーやロボット教材、AR/VR機材などを活用したAI・IoT技術の研修・社会実装支援が実施される。 ・日本に5箇所のラボのひとつ。旭川高専の3D-CAD授業スペースとしても活用されている。   

■その他、有料施設（別会計）として、会員制コワーキングスペース※や会議室も備え、未来の IT 企業への出資やスタートアップに繋がる取組みも展開中。

※複数の人が一つの空間を共有しながら、それぞれの仕事や作業を行う場所

3, ICT パークを設置した背景と現状について

(1) 背景

設置当初は e スポーツを軸にした地域交流やイベント、プログラミング体験や最新技術に触れる機会を提供し、若者の他、幅広い年代による地域の賑わいの創出や未来の ICT 人材育成を支える基盤として、雇用・ビジネス創出を見据えた企業誘致や地域産業との公民連携事業を目指し、旧国民劇場のリノベーションによる拠点整備を行った。

(2) 現状

月日の経過と共にプログラミング体験者の減少傾向や、コクゲキでの e スポーツ大会もソフトの利用許諾等の申請の難しさ等により、ICT パーク主催の大会が難しくなる一方で、コクゲキ施設を利用したワークショップや講演会の開催など、e スポーツ以外でも積極的に会場利用を図っている。また、トレーニングジムでは、中高生がゲームを通じ ICT に気軽に親しめる環境が利用者の定着を促進しつつあり、コワーキングスペースや会議室の利用者も定着してきており、開設初期の目的は概ね達成している。

トレーニングジム利用状況



4, ICTを利用した地域との取組みについて

今後の旭川市の IT 人材の育成と ICT パークの収支や存続等を鑑みた結果、旭川高専のプログラミングによるオリジナルソフトの開発協力もあり、幼児から ICT に馴染む教育に関連した取組の発信機関として ICT パークを位置付け、ICT パーク内でのイベントに寄らず、地域で開催されるイベントに ICT を利用したブースを設け、イベントに即したゲームを用いて、「出張 ICT パーク」と題し、各地域へ ICT を広める活動を行っている。

5, ICT パークにおける現在の課題と展開について

ICT はハードの進歩も顕著であり設備投資に限界が有るため、限られた予算の中で機器の更新が難しいが、ICT パーク設置当初の理念として 10 年間の継続は見込んでいた。しかし、従業員の業態として主体的な活動やプログラミングする人材は全てアルバイトであり、ICT パーク従業員の確保や従業員の人材育成の課題もあり、課題解決に向けた取組みを行う必要があるとのこと。

6, 主な質疑応答

Q 児童生徒のタブレットと ICT パークの連携はあるのか。

A セキュリティーの関係で連携していない。今後の課題の一つであるが、先生方に ICT の必要性や授業への導入といった ICT 活用理念が響いていない。なお、4～6 年のクラブ活動の時間に作成した教育プログラムを活用した事例はあるが現在は継続していない。

Q 高齢者を対象とした ICT のプログラムはあるのか。

A 市の広報紙にもイベントを掲載し市民へ周知を行うなど、少しずつ実行し始めている。中でも高齢者の方に関心のある老後資金確保に必要な事項をゲーム形式で拾い集める「老後資金獲得ゲーム」や単純な行動で収まる「だるまさんが転んだ」ゲームは、モーションカメラを用いた ICT パークと旭川高専が作成したオリジナルソフトのため利用許諾申請も不要で高齢者の運動にも繋がるため、高齢者に大変好評であり、高齢者主催の行事に合わせて地域の公民館に出張してイベントを開催している。

イベント実施状況



	Q 各世代の反応や市民からの声は。 A 幼児世代はとにかく ICT に慣れ親しむことを目指し、小中高生は ICT に慣れ親しんだ世代のため、もっと ICT で楽しむことを目指している。高齢者は抵抗感もあるが娯楽の一環として理解を示している一方で ICT パークへ足を運ぶことが難しいため出張したイベントを企画することを目指している。 Q モーションカメラを活用したソフトの開発で将来性のある利用方法はあるか。 A 身体に障がいのある方や知的障がい者の方は運動量が少なくなる傾向があるため、健康維持に繋がる運動量を増加するための専用ソフトの開発を検討している。
本市への反映 (意見・課題など)	【佐藤哲朗】 旭川市の ICT パークの取組は中心市街地である平和通買物公園での人通りの減少が懸念されたこともあり、活性化のため若者の訪問に繋げる意図もあって設置された。ICT パークの利用者は3-4千人/年。また、大人はハイスペックの PC を所有していることや高校生以下は無料であることから 90%以上が高校生の利用となっており、活性化への一定の効果はあったと思われる。 一方で、小学校での教育への活用や一般市民の体験、高齢者向けの取組の開始など活動の対象を拡大しており、施設の意味を高めると共に予算の有効活用に務められていることは意義深いと感じた。また、旭川高専が開発したプログラムの活用など、官学連携も実現できていることは、学生にとっても意義のあることであり、大変有効な取組となっていると感じた。 【瀬戸清太郎】 ICT パークは、「拠点型、民間連携、市民体験重視」の方針で中心市街地の活性化に寄与し、旭川市全体の ICT 利活用の底上げに貢献している。また、施設活用にとどまらず、年代別に取り入れやすい ICT を活用した多様なプログラムの発信で、まちの賑わい創出だけでなく、健康増進や人と人との繋がりにも寄与しており、本市にとっても大変参考となる取組である。一方、本市では GIGA スクール構想の推進などにより ICT の導入は一定程度進んでいるが、市民が体験的に関わる場や、ICT を活用した市民参加型の取組みが弱いと思われる。今後は、中心市街地活性化策や地域や市民イベントに ICT 技術を活かした体験プログラムを取り入れるなどの施策を推進し、市全体で ICT 利活用をさらに広げていく必要があると感じた。

【視察先写真】コクゲキ内にて



公式サイト



GAME
CREATORS
CAMP

申込フォーム



ICTパークの 夏休み2025



この冊子はサマージャンが主催の収益事業として発行されています。

7/27
日

デジタルねんどで作ってみよう！ in 旭山動物園

- 13:00-16:30 ● 参加料：2,000 円
- 旭山動物園及びイベントホール ● 定員：12 名(小3 以上)
- 講師：水溜ゲームアートスクール・動物園飼育スタッフ

旭山動物園の動物を見学しながら、デジタルねんどで 3D モデルを作ってみよう！
※保護者の方の入園料は別途発生します。



8/2
土

出張 ICTパーク in 鷹栖

- 13:00-15:00 ● 参加料：1,000 円
- 鷹栖地区住民センター ふらっと(鷹栖町)
- 定員：10 名(小3 以上)
- 講師：ICTパークスタッフ

Roblox でオリジナルゲームを作ってみよう！



8/16
土

出張 ICTパーク in 当麻

- 13:00-15:00 ● 参加料：1,000 円
- 公民館まともーる(当麻町)
- 定員：10 名(小3 以上)
- 講師：ICTパークスタッフ

Roblox でオリジナルゲームを作ってみよう！

8/3
日

モーリーズと学ぶゲームづくり！ ダイナム

- 第1部 10:00-12:00 | 第2部 14:00-16:00
- 参加料：1,000 円 ● ICTパーク「トレーニングジム」
- 定員：各10 名(小3 以上) ● 講師：旭川高専 e-Sports Lab

ステージを作って、障害物やエブを配置して、オリジナルの横スクロールアクションゲームを作ってみよう！



www.morries.jp

8/17
日

初めてのFPS 講座

- 10:00-12:00
- 参加料：1,000 円
- ICTパーク「トレーニングジム」
- 定員：10 組(親子)

アカウントの作り方と初心者向けコーチング



8/9
土

出張 ICTパーク in 上川

- 13:00-15:00 ● 参加料：1,000 円
- 大雪かみかわ スクモ(上川町)
- 定員：10 名(小3 以上)
- 講師：ICTパークスタッフ

Roblox でオリジナルゲームを作ってみよう！



大雪
かみかわ
スクモ
Takeshi Katsura Katsura

8/24
土

冒険の始まりだ "あなたの世界" を ゲームにしよう！

- 13:00-16:00
- 参加料：1,000 円
- ICTパーク「トレーニングジム」
- 定員：10 名(小3 以上)

自分だけのオリジナルRPGゲームを作ろう！



SmileBoom

8/10
日

ビスケットでプログラミング！

- 14:00-16:00
- 参加料：1,000 円
- ICTパーク「コクゲキ」
- 定員：なし(5 才以上)

タブレットで絵を描いて、オリジナルゲームを作ろう！



9/7
日

こども映像スタジオ - 特撮！忍者戦隊バレンジャー編 -

- 10:00-12:00 ● 参加料：1,000 円
- ICTパーク「トレーニングジム」
- 定員：10 名(小3 以上)
- 講師：Studio BACU

自分で撮影した動画に特殊効果をつけて、ミニ特撮動画を作ってみよう！

STUDIO
BACU

ICT
PARK

アイシーティーパーク

旭川市3 条通 8 丁目 842-2 神田館 0166-85-6232

ict-park@taisetsu-kamui.jp

※内容は変更される場合があります。最新情報を必ずご確認ください。

LINEで友だち登録して、最新情報をGET

アイシーティーパーク



主催：ICT パーク推進協議会(運営：大雪カムイミントラ DMO) 共催：旭川市 後援：旭川市教育委員会